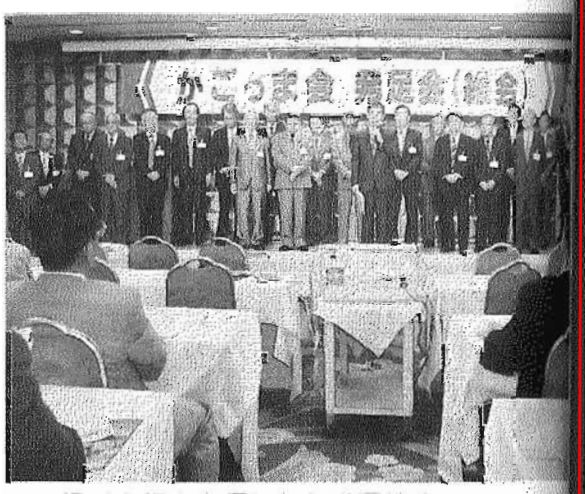
かごっま会 初代会長に村上氏

鹿児島国道ＯＢ会が発足

村上順雄初代会長

鹿児島国道のＯＢ会（杤木威代表世話人）の発足総会が2日、鹿児島市の城山観光ホテルであり、名称は「かごっま会」に決まり、初代会長に村上順雄氏（第11代所長）が就任した。同会は、旧建設省・国土交通省鹿児島国道事務所の在職経験者で結成、対象者は521人で、入会希望者が女性陣を含む271人。会にはそのうち全国各地から女性を含む180人が出席、旧交を温めた。また総会後は鹿児島国道事務所の奥村康博所長が「国土交通省の現状と今後の動向について」と題して記念講話した。

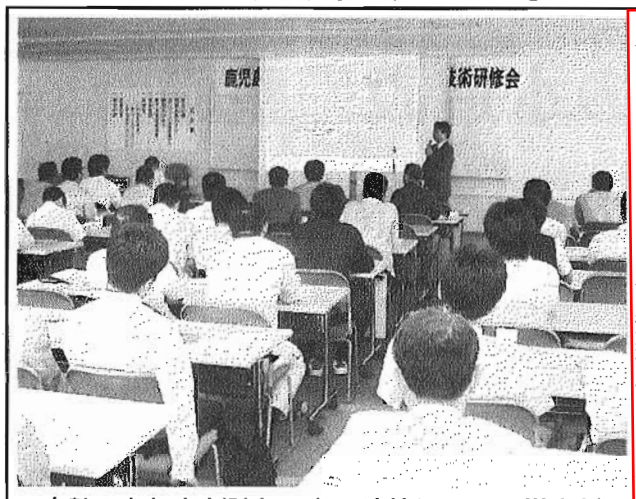
国のＯＢ会はすでに大隅会（大隅河川国道事務所ＯＢ会）、川内会（川内川河川事務所ＯＢ会）があり、鹿児島国道でも事務所開設10周年、20周年の節目などで何度か結成の機会があったが、今年1月に鹿児島市浜町に新庁舎が竣工、また平成5年8月豪雨災害から10年目に当たることから一挙に機運が盛り上がり、今回のＯＢ会結成の機運があった。



役員の紹介も行われた発足総会＝鹿児島市の城山観光ホテルで

村上会長は出席者を前に「非常に長い間からＯＢ会結成の機運があった。ようやく実現できて本当にうれしい」と感想を述べた後、「最近、建設事業をめぐる世の中の空気には厳しいものがある。鹿児島国道でお世話になった私どもは、世の中にいささかでもお役に立てるように、とりわけ鹿児島の建設事業促進のために側面からでも応援していきたい」と抱負を述べた。

同会では、道路の専門家が一堂に集結することから、九州地方整備局ＯＢで組織する「防災エキスパート」や鹿児島県土木部ＯＢの「鹿児島砂防ボランティア協会」のような活動を視野に入れ、将来はＮＰＯ組織「薩摩路エキスパート」に成長したるこ



大勢の参加者が訪れ、各工法等について学んだ公開研修会＝鹿児島市の県市町村自治会館で

県ビルリフォーム協組 公開技術研修会

需要拡大へ新工法学ぶ

県ビルリフォーム協同組合（大平重隆理事長）は2日、鹿児島市の県市町村自治会館で公開技術研修会を開き、県や鹿児島市の建築分野の担当者やゼネコン、設計事務所など約100人が参加して、ＧＮスーパーピンネット工法や外断熱工法等についての技術知識や施工方法などを学んだ。

冒頭、大平会長の挨拶に続いて、全国ビルリフォーム協同組合連合会の渡辺武彦会長が「建築物の維持保全が求められている時代。今回の研修会を意義あるものにしてもらいたい」と挨拶。また、顧問の松里保廣県議、山下孝志県建築課長も「新技術の開発など技術向上は必要不可欠」「今回の研修内容をそれぞれの立場で業務の参考にし、安全で快適なまちづくりの保全に寄与してほしい」と言葉を寄せた。

研修会では、建築分野の第一人者である工学・農学博士の本橋健司氏が「公共建築改修工事の動向とＧＮスーパーピンネット工法」について記念講演を行い、公共建築改修工事の流れやピンネット工法による公共建築物の改修工事事例等について解説。続いて、佐々木淳㈱サンゼオン社長が「ＧＮスーパーピンネット工法」、松岡豊ジーシールド㈱営業販売部リーダーが「外断熱工法」について、それぞれ分かりやすく講話した。

ＧＮスーパーピンネット工法は、平成5年に保全技術審査証明等を当時の建設大臣から認定を受けた建築物の外壁補修工法の一つで、鉄筋コンクリート構造や鉄骨鉄筋コンクリート構造の建築物における外壁などの既存仕上げの上に、新たにネット補強下地層を構築して、タイルやモルタルなどの既存仕上材の落下を防止する補修工法。既に公的に評価認識され、外壁の補修・改修技術として普及している。さらに、既存下地が塗装仕上げでもタイル仕上げでも両方において新たにタイル仕上げができる複合改修工法としてタイル張り用を開発し、同12年に大臣認定を取得した。

大平理事長は「会員による資格者養成の講習会や技術研修会は常日頃から実施し、技術の研さんに励んでいる。我々は技術者であり職人で、現場での仕事には慣れているが、売り込み下手なところがある。今回の研修会で同工法の良さを十分理解してもらい、今後の需要拡大につなげていきたい」と抱負を語った。

五洋建設安全環境推進大会

休業災害ゼロの続伸を

五洋建設㈱南九州支店（黒木一實支店長）と同支店労務安全協議会（森崎勇会長）は2日、鹿児島市の県建設センターで2003年度安全環境推進大会を開き、休業災害ゼロの続伸への誓いを新たにした。

大会では、初めに黒木支店長が「昨年度は皆さんのご努力によって管内での休業災害ゼロを達成できた。今年は、本社中期計画の事実上のスタートと共に、当社が南九州で仕事を始めてから100周年の節目を迎える。厳しい時代だからこそ、安全がすべてに優先する。積極的安全活動を推進し、明るく元気な支店をモットーに、災害ゼロを目標に皆さんとがんばっていきたい」と挨拶。また、森崎会長も「施工に際しては安全衛生、環境保全に配慮した労働災害防止活動を展開していきたい」と述べた。

このあと、関秀正同支店安全環境部長の安全講話、堤博志鹿児島産業保健センター副所長の労働安全衛生講話のほか、プロ野球解説者の石井浩郎氏が「故障を乗り越えて燃えた野球人生」と題して特別講演を行った。

安全衛生表彰は次の通り。

一歩前に進んだ営業努力を徹底しよう――と挨拶する濵﨑社長＝鹿児島市の城山観光ホテルで

各種表彰で安全への機運を盛り上げた大会＝鹿児島市の県建設センターで

【労務安全協議会連合会長表彰】協力会社＝㈱小原鉄筋工業▽協力会社個人＝瀬戸口正浩（㈱森崎建設工業）

【南九州支店労務安全協議会長表彰】無災害事業所＝㈱宮崎尾園建設▽㈲木村潜水工業▽優秀事業所＝㈱九電工▽特別事業所＝日研高圧キドウ㈱▽㈲英美工業㈱ジュシカ▽個人＝木村秀昭（㈲木村潜水工業）成松康雄（㈱森崎建設工業）相良辰雄（㈱南国光建設）西方善照（㈲トウ建産業）冨田恒（㈱ナカムラ内装）山下勲（㈱上原塗装）

中央仮設グループ社員総会

"お客様第一主義"掲げて

中央仮設㈱（濵﨑和久社長）グループは1日、鹿児島市の城山観光ホテルで社員ら約80人が出席して15年度第1回社員総会を開き、新年度のテーマに掲げている「お客様第一主義」などを基本方針に、さらに顧客や地域に必要とされる会社を目指し、グループ社員一丸となりまい進することを確認し合った。

総会では、物故者へ黙とうを捧げた後、濵﨑社長が「相変わらずの経済不況などで、厳しい状況があたり前になっていく中で、いかに利益を出せる企業になるかが今後の鍵。15年度のテーマにも掲げている"お客様第一主義"などを基本方針に、これまでの殻を破り、一歩前に進んだ営業努力を徹底する必要がある。グループ全体で盛り上げて、創立30周年に花を添えよう」と挨拶。続いて、社員表彰式の後、各ブロックのチームリーダーが、業績拡大や管理体制等についてそれぞれの現況・抱負などを発表した。

午後からは、15年度新入社員11人の紹介があった後、濵﨑一朗会長が14年度事業報告・15年度経営方針を発表。この中で、「不況により、グループも苦戦を強いられているが、こういう時こそ前向きな姿勢で取り組んでいく必要がある。今年から、従来の5ブロックから3ブロックに組織を変更したことにより、さらに地域密着型の営業を展開していこう」と、社員を奮い立たせるように呼び掛けた。

表彰者は次の通り。

元吉良三　内直子　國場庸佑　西幸洋　野添昭人　新千亜紀　小牧敏行　徳重正義　徳森亨　中森博　税所真一